

第二十九回

黒田氏の足跡

黒田氏ははもととも近江国伊香郡黒田村を出自とし、官兵衛の祖父の代に現在の兵庫県姫路市東部に勢力を持っていた戦国大名小寺政職（こでらまさもと）に仕えるようになったと言われています。

官兵衛の父黒田職隆（くろだもとか）は主君小寺政職の養女を妻とし、それ以後、息子の官兵衛の代まで小寺姓を名乗っています。

官兵衛自身も小寺政職の重臣として活躍し、主君が毛利氏につくか、織田氏につくか迷った際、勢いのある織田氏につくことがお家のためと建言したと言われ、その後、織田信長から忠誠の証として人質を出すよう主君が迫られた際、自ら長男の松寿丸（後の黒田長政）を人質として差し出しました。また隣国、摂津国を任されていた荒木村重が信長に対し謀反を起こし、それに主君小寺政職が呼応しようとした際、自ら荒木氏の有岡城に翻意を促すよう交渉しに乗り込み、逆に捕えられて一年近く牢獄に幽閉されました。

その後、天正八年に織田氏の手により主君小寺政職が討伐された後は以前から懇意にしていた織田氏家臣の羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）の軍師として活躍す

るようになり、それ以後、黒田氏を名乗るようになります。

さて、その黒田氏が大夫宗麟の要請を受けた天下人豊臣秀吉の命令により九州平定に訪れたのは天正十四年（一五八六年）十月のことです。

築上町にあった宇留津城もこの時、陥落し、城主加来与次郎の妻子ほか千名余りが浜で磔にされました。

石堂山中にはその宇留津城主の墓と伝えられる石碑がかつての居城宇留津城の方向を向いて静かに佇んでいます。

翌年六月、九州平定が完了し、黒田氏は秀吉から豊前国六郡を与えられ、豊前国に入国します。

その際、長男の長政は現在の行橋市・みやこ町に跨る馬ヶ岳城に入り、官兵衛自身は築上町東八田の法然寺を仮住まいとしました。

同年七月、肥後国人一揆が勃発し、その鎮圧の援軍として官兵衛が差し向けられている間に宇都宮（城井）鎮房・野仲鎮兼たちが国人一揆を起こし、旧領を奪還しました。

血気盛んな長男長政は同年十月、第一次城井谷合戦を開始します。その際、正面からではなく、広幡城（水原）を攻略してからそのまま岩丸の尾根を攻め

ました。この戦いは結果的に黒田側の大敗に終わり、長政は命からがら、馬ヶ岳城に逃げ帰ったと言われます。また黒田方家臣の大野小弁正重や勝間田彦六左衛門重晴らは奮戦の末、城井氏側の塩田内記や新貝荒五郎に討ち取られました。櫛原の黒岩越にはこの時に討ち取られた八百人余りの首が並べられたと言

い伝えられ、現在も首塚として残されています。江戸時代以降、築上町小山田から岩丸にかけての山中に大野小弁正重や勝間田彦六左衛門重晴を慰霊する石碑が建立されました。

これらの石碑を前に佇んでいると、戦乱に明け暮れた往時の様子が目に浮かんできます。

（文化財保護係 馬場克幸）



▲宇留津城跡
城主加来与次郎方
3,000人に対し、
豊臣方28,000人。
奮戦の末、あえなく
落城した。

▼法然寺（東八田）
黒田官兵衛が仮住まいした。



「宇都宮氏歴史講座（初級編）第1・2回」開催

11月17日、12月8日、コミュニティセンターソピアで築上町安武出身の宇都宮氏研究者則松弘明先生による講座が開催されました。ユーモアを交え、今風な言葉に置き換えて語りかける先生の話に参加者は引き込まれていました。参加者からは「90分は短すぎる。もっと先生の話が聞きたい」「わかりやすくとても楽しく学べました」などの感想が寄せられました。



NPO法人しいだコミュニティ倶楽部からのお知らせ

新年あけましておめでとうございます。26年も「しいコミ」ライフで元気に楽しく過ごしましょう！みなさんの笑顔と健康のために・・・スタッフ一同全力で頑張ります！今年もよろしく願いします。

しいコミ温泉バスツアーに行ってきました！
12月2～3日長崎県福島温泉



「しいコミ交流新年会」のお知らせ

日時 1月25日(土) 11:30受付
会場 築上町中央公民館(大ホール)
対象 しいだコミュニティ倶楽部会員と指導員
参加費 男性2,500円、女性2,000円
〔6月の草刈時の500円割引券を使用できます〕
申込期間 1月7日(火)～17日(金)
●会員の皆さんのステージ出演者募集します！
ダンス・かくし芸など大歓迎です。